

ひかり

一般社団法人

光陽福祉会

発行日 平成 27年11月 第64号

光陽福祉会と子育て奮闘記

会長 菊池 利哉

平成20年3月長良福光で産声をあげたサポートセンターつぼみ。
あの頃、長男一希は6歳。丁度、年長から小学一年生になる時期だった。6歳になるまでのことを今でも鮮明に記憶している。

平成13年12月27日「この子は一生寝たきり、一生歩けない。」そう告げられた。ただ子どもの顔を見るのも辛かった日。「これも出来ない、あれも出来ない。」と言われた検診。病院に行くのが怖かった。近所の人に「いくつになった？」と聞かれる度に、血の気が引いたあの頃。5年先の「不安」10年先の「暗闇。」そこからどう逃れるか、ただそれだけを考えていたのかもしれない。光陽福祉会が誕生するまでは……

平成20年3月ボロボロの民家ではじめた「つぼみ」当時は日中一時支援事業で毎月赤字。岐阜の古くからの「福祉のおきて」との闘い。民間事業所に対する軽視。ただただ、10年先の暗闇に少しでも光が差し込むように……苦勞でなく闘い。外はみんな敵だった。

平成21年4月ヘルニアで入院手術。この時、長男を抱っこして歩くことに限界を感じ車いすにした。そして、一般社団法人光陽福祉会を設立。「闇に光を。」が「光陽」しがらみの福祉はしない。固定概念の福祉はしない。夢があつて希望があつて具現化できる福祉をする。そう誓った。

平成24年本社竣工、就労移行支援事業 就労継続支援B型事業開始
平成25年笠松事業所 第二サポートセンターつぼみ開始
平成26年第二光陽竣工。

そして、平成28年3月第三光陽が竣工する。
第三光陽は企業と共同する工場を兼ね揃え、さらに放課後等ディサービス高等部が入る。全国でも初めての試みになるだろう。

父親として、少しだけ光が見えてきた気がする。でも福祉従事者として、これで終わりじゃない。第三光陽はマイナスからスタートした光陽福祉会のゼロ地点である。



きっずサポートはぐくみ

季節のフルーツを食べてみよう！ 後藤 成実

今回のフルーツは赤りんご、青りんごに梨と盛りだくさん！まずは触ってみて「うーん、ざらざらしてるね。」「これはつるつるしてるよね。」なんて話していると、りんごがコロコロコロ〜と転がって慌てて拾いに行く子が。そうだね。これから食べる予定の美味しい美味しいフルーツ！転がっていったら困るもんね。

今度は匂いを嗅いでみます。「わー！！いい匂いがするー♪」本当だね。皮を剥いていなくてもいい香りがするよね。

さて、お弁当を食べた後、いよいよ楽しみにしていたデザートタイムです。そう！待ちに待ったりんごと梨。みんな美味しい美味しいと頬張ります。あつと言う間にお皿は空っぽ。

いつもはりんごや梨なんて口にも入れたことない子がみんなと一緒に美味しく食べられたことが何よりでした。



サポートセンターつぼみ



ご家庭との架け橋 山中 のりよ

10月の会報誌ひかりの島塚先生に続き、おばちゃんパワーでふんばる私が常々思うこと…。つぼみの職員には、一日一度は必ず口から出てしまう言葉がある。それは…

「ノートを出してね」という言葉。

間違いなく、職員が一日一回は言っている！と私は思っています。

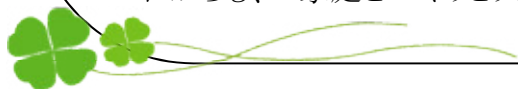
子ども達も心得ていて、ほとんど自分から出しているのに、つい催促してしまう訳は、…ご家庭からの連絡事項を確認するだけではなく、お子さんについてノートに何か書いてあれば早く知りたい、という気持ちがあるのかなと思っています。

子どもたちがつぼみで過ごす時間は限られているので、その他の長い時間をどんなふうにご覧しているのか、つぼみで子どもたちと接しているだけでは計り知れない部分があります。いつもと違う様子があったときはもちろんのこと、ほんのちょっとした出来事やご家庭では当たり前な日常の様子でも、お子さんについて少しでも多くのことを知りたいと職員は思っています。

ノートから、お子さんの行動の背景が見えてくることもありますし、つぼみでは見せない意外な一面を知って驚いたり、お子さんに対する認識を新たにすることもあります。お誕生日など、嬉しい出来事があったと分かったら、職員も嬉しくなって、お祝いを伝えるなど、子どもとコミュニケーションをとるチャンスにもなっています。そして、「この間のつぼみの調理の活動で、普段口にしないものを食べたので驚きです」など、ご家庭から嬉しいご感想をいただいたときには、職員のやる気も更にUP！です。

もちろん連絡手段はノートだけではありませんし、職員も、その日のプログラムによってはお子さんの様子をお伝えするよりも、活動の充実を優先することもあります。でも、せっかくお子さんたちが毎日運んでくれるノートは、大いに活用したいですね。

これからも、ご家庭とのやりとりを大切にして活動に取り組んでいきたいと思っています。



第2光陽

「大好きなみんなへ」

吉田 奈央

つばみに送迎バスが到着。しかし、その日私は落ち込み気味で元気が出ませんでした。あと〇時間か〜何とか頑張ろう…という気持ちだけで子供達を迎えようとしていました。

部屋で準備をしながら待っていると、一番乗りのK君が今日もパワー全開で勢い良く入って来ました。来たなと思い、いつものように「おかえり！」と迎えようとする私の背後から力一杯抱きついてきたのです。

いつまでも甘えん坊で可愛くて憎めないK君。

「もう中学生のお兄さんがこれはどうかな？」言いかけた私の言葉を、彼は「違うの！」と言って遮りました。

「先生と一緒に嬉しいの！！」と、K君は屈託のない笑顔で言いました。

また別の日の部屋での事。高等部のR君が私の隣に来て座りました。俯いたまま小さな声で「いっしょ…」と呟きました。私は何の事を言っているのかが咄嗟に分かりませんでした。

何が一緒かな？服かな？靴下かな？と必死に探したけどやっぱり分からなくて降参し、「分からん！教えて！」と尋ねました。

「へや…」と、R君は答えました。

子供達を感じている事って、自分が考えているよりずっと単純で小さくて純粋なんですね。こんなに綺麗に発達した心には、一生かかっても追い付けないなあ。

とある男の子のお母さんが送迎時に教えて下さいました。「先生、気づいてらっしゃいますか？うちの子は先生が大好きなんですよ」と。その男の子は隣ではにかんでいました。一年前の事ですが忘れられません。彼らは私に、仕事へ向かう姿勢を教えてくれる先生です。

上手く言えないけど、いつも本当にありがとう。

ワークサポート光 就労移行支援

☆今年も参加してきました☆

高橋 久瑠実



今年も昨年に引き続き、信長祭りの『わく☆わくフリーマーケット』に参加しました。

フリーマーケットに参加するにあたり、沢山の物品を寄付して下さいたり、お忙しい中足を運んで下さった方々、本当にありがとうございました。またKFK(後援会)の皆様には値札付けや当日の準備等、様々な面でサポートして頂きました。ありがとうございました！



フリーマーケット当日は、良い天気にも恵まれました。(彼らの日頃の行いが良かったからですね♪笑)

初めて参加した子は緊張からなのか…何回か参加経験がある子は恥ずかしさからなのか、みんな始めは小さな声でした。しかし、少しずつ心がほぐれていき元気な販売員になってくれました！

お客様との会話やお金のやりとりは、とっても貴重で良い体験になりました。

